

感染症発生動向調査委員会報告 8月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの集団感染が見られました。迅速キットでA型でした。
- 腸管出血性大腸菌感染症は14件の報告がありました。(8月25日現在)
- デング熱は、7月と8月に計4件の報告がありました。すべて東南アジアでの感染でした。
- HIV感染症が9件報告され、うち6件は男性同性間性的接触によるものでした。
- 流行性耳下腺炎が、依然として過去5年間の中でも高めに推移しています。
- 手足口病、ヘルパンギーナ等、夏の感染症は落ち着きを見せています。

平成22年7月19日から平成22年8月22日まで(第29週から第33週まで。ただし、性感染症については平成22年7月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

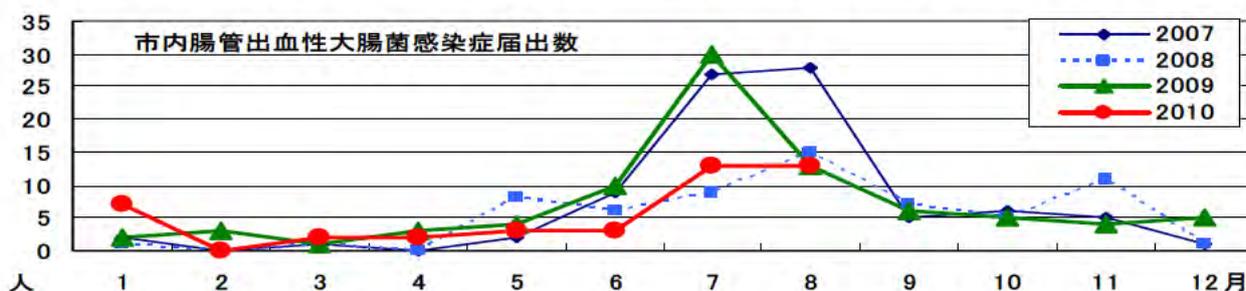
平成22年 週一日対照表

第29週	7月19日～7月25日
第30週	7月26日～8月1日
第31週	8月2日～8日
第32週	8月9日～15日
第33週	8月16日～22日

全数把握疾患

<腸管出血性大腸菌感染症>

8月に14件の報告がありました。例年夏に多いので、これからの季節もまだ注意が必要です。



腸管出血性大腸菌感染症についてはこちらを御覧ください。

横浜市衛生研究所 HP

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/inf_c_0157_guide.html

<腸チフス>

1件の報告がありました。推定感染地はインドです。

<デング熱>

4件(7月2件、8月2件)の報告がありました。推定感染地はラオス2件とインドネシア2件でした。

世界的にも感染が増加しています。1950年代にフィリピンとタイで最初に報告されてから、1970年代には9カ国で局地的流行が認められ、現在は世界の各地域に流行が広がっています。

国内でも今年は8月8日時点で既に87件が報告され、今月中にも昨年の報告数92件を上回ると見られています。特に渡航歴の確認できた66件のうち39件の渡航先がインドネシアであることが注目されています。国立感染症研究所HPデングウイルス感染情報を御覧ください。

<http://www.nih.go.jp/vir1/NVL/dengue.htm>

<A型肝炎>

1件の報告がありました。推定感染地はインドネシアでした。

<アメーバ赤痢>

3件(うち1件は7月の報告)の報告がありました。1件は推定感染地が台湾でした。

<HIV感染症>

9件(うち5件は7月以前の報告)の報告がありました。男性8件。同性間性的接触6件です。

昨年の国内のHIV感染症1021件のうち88%は日本国籍男性で、さらにその74%は同性間性的接触が原因です。男性の同性間性的接触は、HIV感染症のリスクファクターです。HIVは一旦感染すると治癒が困難な疾患です。感染予防をしっかりと行うことが大切です。

平成21年の全国のHIV感染症の動向については、国立感染症研究所HPを御覧ください。

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/31/366/tpc366-j.html>

定点把握疾患

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:91か所、内科定点:59か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計197か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計150定点から報告されます。

<インフルエンザ>

昨年は8月に定点当たりの報告数が流行のめやすである1を超えましたが、第33週は定点当たり0.04と、市内での流行はみられません。神奈川県域(横浜市、川崎市、相模原市を除く。)では0.13、川崎市は0.00、全国は0.03でした。

※横浜市内での最近の状況

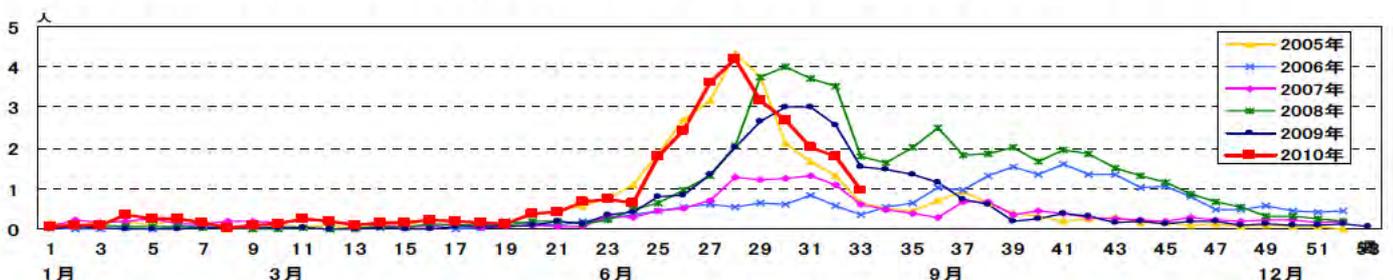
- ・都筑区の1施設で11人の集団感染の報告がありました。迅速キットでA型でした。
- ・横浜市衛生研究所の病原体検査では、8月にはタイからの輸入例で新型インフルエンザが、7月にはフィリピンからの輸入例でA香港が、検出されています。

<咽頭結膜熱>

第33週は定点当たり0.10で流行はみられません。今年は例年になく、夏の立ち上がりが見られませんでした。

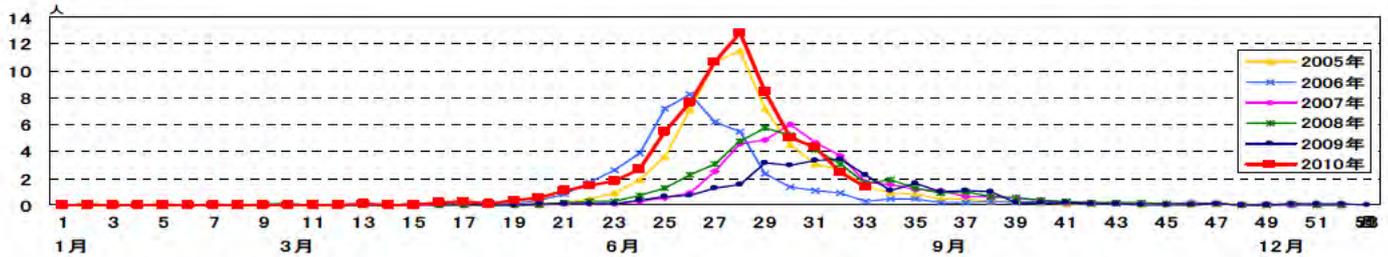
<手足口病>

第33週は定点当たり0.96で流行はみられません。第28週に定点当たり4.21とピークを示しましたが、その後順調に漸減しています。神奈川県域では1.61、川崎市は1.80、全国は1.34でした。



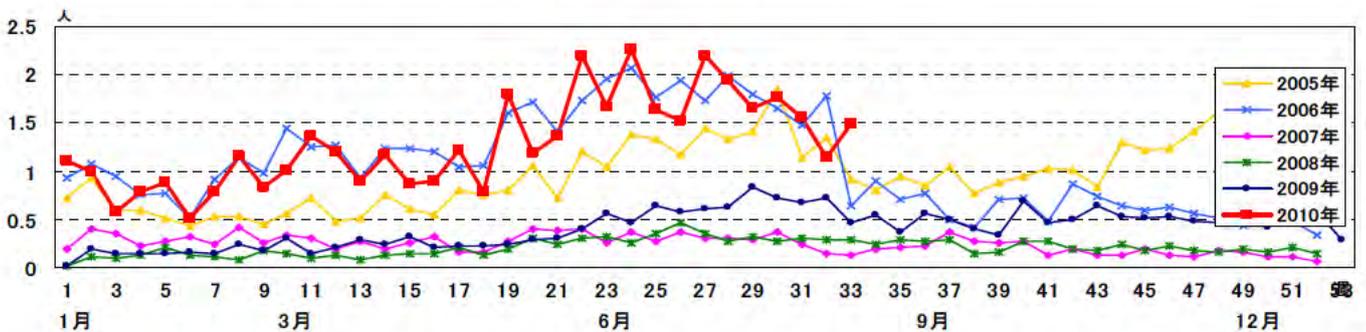
<ヘルパンギーナ>

第26週に定点当たり7.66で、市内全域で警報域となり、第28週に12.83とピークになりましたが、その後漸減し、第33週は定点当たり1.34で流行はみられません。神奈川県域では1.05、川崎市は1.37、全国は1.32でした。



<流行性耳下腺炎>

第19週以降、過去5年と比較して高めに推移しています。第33週は定点当たり1.49と、依然として過去5年と比較してこの時期で最大の報告数です。神奈川県域では1.15、川崎市0.93、全国1.20でした。行政区別では泉区7.33、緑区3.00、神奈川区2.20、瀬谷区2.00が高めです。



<性感染症>

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

8月も例年の傾向と同じです。性器クラミジア感染症が24件(男性8、女性16)、性器ヘルペス感染症は14件(男性3、女性11)、尖形コンジローマは9件(男性3、女性6)、淋菌感染症は8件(男性7、女性1)でした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点40件(鼻咽頭ぬぐい液39件、ふん便1件)、眼科定点1件(結膜ぬぐい液)、基幹定点6件(鼻咽頭ぬぐい液2件、髄液2件、ふん便2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎24人、ヘルパンギーナ6人、手足口病3人、胃腸炎3人、発疹症3人、発熱1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点は無菌性髄膜炎3人、手足口病1人、インフルエンザ1人でした。

9月10日現在、小児科定点の気道炎患者2人からアデノウイルス(2型1人、型未同定1人)、気道炎患者1人からコクサッキーウイルスB(CB)4型、胃腸炎患者1人からアデノウイルス1型、手足口病患者1人からエンテロウイルス71型、基幹定点の無菌性髄膜炎患者3人からCB2型、インフルエンザ患者からインフルエンザウイルスAH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気道炎患者1人、発疹症患者1人からコクサッキーウイルスA(CA)2型、気道炎患者1人、ヘルパンギーナ患者3人からCA4型、胃腸炎患者1人からCA5型、気道炎患者1人、手足口病患者1人、ヘルパンギーナ患者2人からCA6型、気道炎患者1人、胃腸炎患者1人からRSウイルス、気道炎患者1人からインフルエンザウイルスAH1pdm型とCA2型、基幹定点の手足口病患者からCA6型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【検査研究課 ウイルス担当】

<細菌検査>

8月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの検体が2件で1件から腸管毒素原性大腸菌O115:H+,STが検出されました(表)。基幹定点からは菌株受付が4件、定点以外の医療機関からは菌株が17件でした。そのうち、基幹定点から、腸管出血性大腸菌O157、VT1&2が1件検出されました。定点以外の医療機関からは腸管出血性大腸菌O157、VT1&2が8件、O157、VT2が7件、VT1が1件、O145:H-,VT2が1件検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点からの8件で、A群溶血性レンサ球菌が4件から検出されました。その血清型はT1が2件、T4が1件で、T13が1件から検出されました。

基幹定点から劇症型溶血性レンサ球菌感染症から分離された検体が1件あり、A群溶血性レンサ球菌で、その血清型はT1でした。

定点以外の医療機関から百日咳疑いの検体受付が1件あり、Lamp法で遺伝子が検出されましたが、培養検査では百日咳菌は検出されませんでした。

表 感染症発生動向調査による病原体検査(8月) 細菌検査

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別	8月			2010年1～8月		
	小児科	基幹	その他 ^{*1}	小児科	基幹	その他 ^{*1}
件数	2	4	17	15	64	42
菌種名						
赤痢菌					2	2
腸管病原性大腸菌					6	
腸管出血性大腸菌		1	17		3	39
腸管毒素原性大腸菌	1			1	2	
パラチフスA菌						1
サルモネラ				2		
不検出	1	3		12	51	

その他の感染症

検査年月 定点の区別	菌種名	8月			2010年1～8月		
		小児科	基幹	その他 ^{*1}	小児科	基幹	その他 ^{*1}
件数		8	1	1	67	4	17
A群溶血性レンサ球菌	T1	2	1 ^{*2}		24	1	1
	T4	1			3		
	T6				1		
	T12				5		
	T13	1			1		1
	T25				1		
	T28				7		
	T B3264				1		
	型別不能				3		
G群溶血性レンサ球菌					1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						2	
バンコマイシン耐性腸球菌							3
髄膜炎菌							1
Streptococcus suis							1
Corynebacterium ulcerans						1	
不検出		4		1	20		10

*1 定点以外医療機関(届出疾病の検査依頼)

*2 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

[検査研究課 細菌担当]